

フルムーンパスは 無くなった



室蘭市医師会
日鋼記念病院

おの さとる
小野 暁

今年は生まれてから5回目の卯年であり、そろそろ仕事人生の先が見えてきている。数年前伴侶との会話で、「リタイア後に何をしたいか」という話になった時に、「そうだ、確かJRにはフルムーンパスという企画切符があるから、それを使って少し贅沢な鉄道旅行でもしようか」と談笑した覚えがある。

私は特に今でいう「鉄オタ」というわけではない。ただ、当時住んでいた関東圏では幼稚園や小学生男児が将来ついでみたい職業の上位に「電車の運転士さん」がランクされていた世代で、鉄道は身近だった。大学を卒業して就職し、しばらく経つまでは、旅行と言えば電車に乗って、ちょっと遠出をするイメージだった。今となっては何を思ったかわからないが、学生時代にたまたまヒマができてバイト代の残りがあった時に、突然札幌発の夜行に乗って稚内まで出かけ、まだ廃止前の天北線に乗って戻ってきたこともある。ただそれだけの為に。また書店で全国時刻表を見かけるとつい購入してしまい、旅行の予定もないのに、〇〇駅での乗り継ぎが7~8分で次の特急に間に合うんだ、などといった発見をしてなぜかうれしくなったりする変な趣味？もあった気がする。今考えれば時間のムダである。何の役にも立たない。鉄道は意外と不便で、効率的でも経済的でもない。ただおそらく、ノロノロと走る列車の窓からボーッと景色を見ていたり、乗り換え駅での人のざわめきの中になんとなく立っていたり、行きもしないそうした旅行を想像したりする時間がなぜか幸せだったのだろう。それから時が経って、私の生活の周りからはこのような時間は消え去ってしまい、目的もなくわざわざ不便なことを選ぶことはない。世の中は便利が追求され、旅行は飛行機や新幹線を使って超高速で目的地近辺に到達して、レンタカーで効率よく観光地の「映え」の良い写真を撮って歩くものになった。全国の鉄道地方路線は次々と赤字で廃止となり、鉄道旅行は一部の人達の特別な趣味になった気がする。

2022年の9月、それまで40年続いたフルムーンパスはJR各社から発売されなかった。このまま発売中止とのこと。新幹線と宿泊のパッケージ旅行などの需要がより高いということらしい。「リタイア後」に便利でも効率的でも経済的でもないけど、なんとなく幸せで無駄な時間を送るアイデアが一つ無くなってしまった。また何か考えて相棒を説得しなければ。

決断・転機の1年



札幌医科大学医師会
札幌医科大学附属病院

むら やま こう すけ
村山 公介

毎月拝読している北海道医報より、新春随想の寄稿依頼が突然届き驚きましたが、年男・年女から無作為抽出とのことですので、僭越ながら寄稿させていただきます。

今年度で医師10年目となり、仕事・私生活とも今後どうするかを考える時期になりました。仕事に関しては、今年度から5年半ぶりの大学病院勤務となり、自身が専門性を高めたい分野を中心に幅広く症例を経験させていただいており、忙しくも非常に充実した日々を過ごしております。また、研究において今年度中に学位を取得できる見込みとなり、とりあえずほっとしております。

プライベートでは、そろそろ生活の拠点を固定したいと考え、マイホームを建てることを決めました。これまでは賃貸で一戸建てに住んでおりましたが、家賃と変わらない金額でローンの支払いができることに気づき、住宅ローン減税の終了・物価高騰の波が今後来ることを見越して購入を決意いたしました。諸先輩方はすでにご経験済みとは存じますが、土地を決めて購入することが難しく、また契約にスピードも要求されるため、非常に苦労いたしました。土地を決めるうえで検討すべき要素は複数ありますが、最終的に私は地下鉄駅からの近さと小中学校からの近さを重視して決定いたしました。建築条件付きの土地でしたので、ハウスメーカーは指定の会社に依頼を行いました。間取りや内装に関しては、これまで複数回異動を繰り返すたびに一戸建て賃貸を借りていたこともあり、比較的スムーズに進めることができました。2022年9月頃より着工となり、現在順調に建築が進行しております。ちょうど本誌が届くころに建築完了となっている予定です。

加えて土地を探している時期に、妻が第1子を妊娠したという嬉しいニュースもあり、2023年は家族3人で新居での生活となる予定です。2022年は人生の大きな決断・転機が複数あった1年となりましたが、2023年からも変わらず北海道の医療に貢献できるように頑張っていきたいと考えております。